

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	光・量子科学研究拠点形成に向けた基盤技術開発		担当部局庁	文部科学省			作成責任者
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度～		担当課室	基盤研究課量子放射線研究推進室			量子放射線研究推進室長 原 克彦
会計区分	一般会計		施策名	X-8 新興・融合領域の研究開発の推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	光科学技術の推進に関する懇談会中間報告書(平成19年7月)横断的利用の促進と先端的基盤研究開発の推進(「量子ビーム研究開発作業部会」中間取りまとめ)(平成19年6月)第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)今後の光・量子ビーム研究開発の推進方策について中間報告(「光・量子ビーム研究開発作業部会」)(平成24年6月)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	全国に散在する光科学技術・量子ビーム技術のポテンシャルを結集し、光・量子科学技術分野の研究開発課題を国として戦略的・積極的に実施するとともに、次世代の光・量子科学技術を担う若手人材の育成等を図ることにより、先端科学技術分野や産業分野での革新的な成果を創出することを目指す。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	最先端の光の創成や量子ビーム技術における先端的な要素技術開発を目指したネットワーク研究拠点による、次の内容を含む提案を公募により採択し、実施する。 ・欧米の手法等に追従しない独自の光源・ビーム源・ビーム制御技術等の研究開発 ・先端光源等を活用したユーザー研究者の開拓・養成 ・次世代の光・量子科学技術を担う若手人材の育成						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		補正予算	▲ 1	-	-	-	
		繰越し等	-	▲ 254	254	-	
		計	1,720	1,267	1,579	1,316	1,916
	執行額	1,718	1,265	1,577			
	執行率 (%)	99.9%	99.8%	99.9%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (24年度)
	本事業に参画している若手人材による、事業を通じた研究成果の論文等掲載数(累計)		成果実績	件	142	257	303
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	若手人材の事業参画者数(累計)		活動実績 (当初見込み)	人	208 (140)	259 (210)	326 (280)
単位当たりコスト	225(百万円/課題)		算出根拠	単位当たりコスト =23年度執行額(1,577百万円)/実施課題数(7課題)			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	非常勤職員手当	4.0百万円	3.8百万円	平成24年度で一部のプログラムが終了し、平成25年度より新たなプログラムを立ち上げるための増			
	諸謝金	0.4百万円	0.3百万円				
	職員旅費	0.3百万円	0.3百万円				
	委員等旅費	0.9百万円	0.9百万円				
	庁費	0.4百万円	0.4百万円				
	科学技術試験研究委託費	1,310.2百万円	1,910.4百万円				
計	1,316百万円	1,916百万円					

事業所管部局による点検				
	評価	項目	評価に関する説明	
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	当事業は、第4期科学技術基本計画の「領域横断的な科学技術の強化」等においてその必要性が明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業である。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。		
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。		
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の選定に当たっては、十分な公募期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、その妥当性や競争性を確保した。また、効果的・効率的に成果を創出するために、事業のPD・POが各課題の研究の進捗状況に応じてプログラム間の調整を行っている。経費の執行については、事業年度毎に実績報告書等において、支出先・使途の把握、経費の使用状況等の確認に努めている。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	本事業は、公募により選定された複数の大学、公的研究機関を対象とした委託事業として実施しており、実効性の高い事業となっている。 なお、当該事業で得られた成果については、幅広い分野の研究者が利用できるよう、シンポジウムで発表するなどの工夫を行っている。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。		
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。		
	-	※類似事業名とその所管部局・府省名		-
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	引き続き効果的・効率的な運営に努めつつ、着実に研究開発・人材育成に努めるべき。			
予算監視・効率化チームの所見				
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：本事業は、さまざまな科学技術を支える基盤である光科学・量子ビーム技術に関する研究開発の支援等を行う競争的資金である。</p> <p>2. 所見：本事業は、平成22年度レビュー等の指摘を踏まえ、平成23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、積算内容を見直すなどコスト削減等に努めるべきである。</p>			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)				
縮減	計画を一部見直して消耗品費等の経費の削減を図るなど、事業の効率的・効果的实施により概算要求に▲15百万円反映した。			
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)				
<p>【参考：最先端の光の創成を目指したネットワーク拠点プログラムホームページ】http://www.photonfrontier.net/</p> <p>【参考：量子ビーム基盤技術開発プログラムホームページ】http://www.quantumbeam.net/index.html</p>				
関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成22年行政事業レビュー	0298	平成23年行政事業レビュー	0259	

※平成23年度実績を記入

文部科学省
1,577百万円

・非常勤職員手当 4.1百万円
・職員旅費 0.3百万円
・委員等旅費及び弁費 0.2百万円 } を含む

最先端の光の創成や量子ビーム技術における先端的な要素技術開発を目指したネットワーク研究拠点による、次の内容を含む提案を公募により採択し、実施する。
・欧米の手法等に追従しない独自の光源・ビーム源・ビーム制御技術等の研究開発
・先端光源等を活用したユーザー研究者の開拓・養成
・次世代の光・量子科学技術を担う若手人材等の育成

↓
【公募等・委託】

A. 大学・大学共同利用機関・独立行政法人等(全19機関)
1,573百万円

〔超伝導加速による次世代小型高輝度光子ビーム源開発等〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.高エネルギー加速器研究機構			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
設備備品費	先端光源等の研究装置費等	419			
間接経費	間接経費(直接経費の30%)	151			
業務実施費	雑役務(磁場調整作業)等	23			
	旅費(現地調査)等	13			
	消費税相当額	2			
人件費	業務担当職員等	27			
消耗品費	部品等	18			
計		653	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	超伝導加速による次世代小型高輝度光子ビーム源の開発等	653	企画競争 ※	—
2	国立大学法人東京大学	先端光量子科学アライアンス等	157	企画競争 ※	—
3	国立大学法人大阪大学	光新創生のための人材育成、光源要素技術開発と応用、施設供用等	125	企画競争 ※	—
4	独立行政法人日本原子力研究開発機構	融合光新創生ネットワーク等	125	企画競争 ※	—
5	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	リング型光源とレーザーを用いた光発生とその応用等	115	企画競争 ※	—
6	国立大学法人京都大学	融合光新創成ネットワークのための光源開発・人材育成・施設供用等	94	企画競争 ※	—
7	独立行政法人理化学研究所	先端光源技術開拓	68	企画競争 ※	—
8	国立大学法人電気通信大学	先端光科学システムの構築	68	企画競争 ※	—
9	慶應義塾	先端光波制御活用技術	36	企画競争 ※	—
10	国立大学法人広島大学	レーザー蓄積装置および大強度高品質電子源開発	26	企画競争 ※	—

※ 国からの研究委託であり、平成20年度に公募・採択したものである。